麦のくき 口にふくみて 吹きをれば ふとなりいでし 心うれしさ

窪田空穂

白鳥は かなしからずや 空の青 海のあをにも 染まずただよふ

若山牧水

不来方の お城の草に 寝ころびて 空に吸はれし 十五の心

石川啄木

つばくらめ 空飛びわれは 水泳ぐ 一つ夕焼けの 色に染まりて

馬場あき子

観覧車 回れよ回れ 想ひ出は 君には一日 我には一生

栗木京子

校庭の 地ならし用の ローラーに 座れば世界中が 夕焼け

穂村弘

迷いながら ぶつかりながら 揺れながら 過ごした日々を いとしく思う

加藤千恵『放課後』

フィルムが あまってるって 言ったけど それはほんとは 口実でした

加藤千恵『放課後』

幸せに ならなきゃだめだ 誰一人 残すことなく 省くことなく

加藤千恵『ハッピーアイスクリーム』

まっピンクの カバンを持って 走ってる 楽しい方が あたしの道だ

加藤千恵『ハッピーアイスクリーム』

おしまいに するはずだった 恋なのに しりきれとんぼに しっぽがはえる

俵万智『会うまでの時間』

「寒いね」と 話しかければ 「寒いね」と 答える人のいる あたたかさ

俵万智

「とんちんかん」と 書かれたページで 子は笑う 必ず笑う「とんちんかん」

俵万智『プーさんの鼻』

約束は 破っていいよ 指切りが ただしたかった だけなんだから

天野慶『短歌のキブン』

元気だせ 黄色い花で 癒えろー 、と 手を振っている 菜の花の道

飯田和馬「天下一短歌会」

疲れた 、と 吐けば疲れる 。周りまで 。それはさておき とても疲れた

飯田和馬『短歌男子』

思い知れ 、お前は一人 、一人なのだ 、一人だ 、一人 、しかいないのだ

牛隆佑「天下一短歌会」

からっぽの病室 君はここにいた まぶしいくらい ここにいたのに

木下龍也『つむじ風 、ここにあります』

神様に ケンカ売ったら ぼこぼこに されちまったぜ まじありがとう

木下龍也『つむじ風 、ここにあります』

おとうふの 幸せそうな やわらかさ あなたを好きな わたしのような

嶋田さくらこ『やさしいぴあの』

ちょこちっぷくっきーって 言うときの顔 好きだったとか 早く忘れろ

嶋田さくらこ『やさしいぴあの』

プレゼント したかったけど 鳥取の砂丘は大きすぎて 、ごめんね

フユ/ブログ「パラソル」

谷くんは 給食のプリン とり落とし 放課後ずっと 喪に服してる

フユ/ブログ「パラソル」

猫なげるぐらいが何よ 本気出して怒りゃハミガキしぼりきるわよ

穂村弘『シンジケート』

振り上げた 握りこぶしはグーのまま 振り上げておけ 相手はパーだ

枡野浩一『てのりくじら』

遠くから 手を振ったんだ 笑ったんだ 涙に色が 無くてよかった

柳澤真実／枡野浩一『かんたん短歌の作り方』

〈反省の 色が見えない〉〈反省の 色はなにいろ〉教師と少年

今井恵子

たとへば君 ガサッと落葉 すくふやうに 私をさらって 行ってはくれぬか

河野裕子

まばらなる 冬木林に かんかんと 響かんとする 青空の色

ふゆきはやし

島木赤彦

くわっと照る 陽をまたくわっと押し戻し 都会は熱き方形のつらなり

永井陽子

水を出で おおきな黒き水掻きの ぺったんぺったん 白鳥がくる

渡辺松男

やわらかな 日差しのなかで にょにょにょにょにょと 寝起きみたいな ソフトクリーム

野口あや子

きゆるきゆると バッシュ鳴りつつ少年ら 膝やはらかくパスワークする

小島ゆかり

夜の川 小さなひかり ゆらゆらと 空にも地にも 星がゆらめく

北尾慧〔河原中2年．2013 年〕

砂浜で 長い棒持ち かまえるよ 置かれて おびえる 大きなスイカ

北尾慧〔河原中2年．2013 年〕

麦藁帽 かぶる少女に 付いていき 目に映ったのは 黄色の世界

國本莉奈〔河原中2年．2013 年〕

夏の夜 見上げる空に 咲きほこる 光の花で 河原照らす

藤田さやか〔河原中2年．2013 年〕

せりなづな ごぎやうはこべら ほとけのざ すずなすずしろ これぞ七草

作者未詳

萩の花 尾花葛花 なでしこの花 女郎花 また藤袴 朝顔の花

山上憶良『万葉集』

銀も 金も玉も 何せむに まされる宝 子にしかめやも

山上憶良『万葉集』

新しき 年の始めの 初春の 今日降る雪の いや重け吉事

大伴家持『万葉集』

立ち別れ いなばの山の峰に生ふる まつとし聞かば 今帰り来む

在原行平『小倉百人一首』

ヒヤシンス 薄紫に咲きにけり はじめて心 ふるひそめし日

北原白秋

向日葵は 金の油を 身に浴びて ゆらりと高し 日のちひささよ

前田夕暮

みちのくの 母のいのちを 一目見ん 一目見んぞと ただにいそげる

斎藤茂吉

蚊帳のなかに 放ちし蛍 夕されば おのれ光りて 飛びそめにけり

斎藤茂吉

鳳仙花 ちりておつれば 小き蟹 鋏ささげて 驚き走る

窪田空穂

十二色の いろえんぴつしか ないぼくに 五十五色の ゆふぐれが来る

荻原裕幸

ジャージーの 汗滲むボール 横抱きに 吾駆けぬけよ 吾の男よ

佐佐木幸綱

土鳩は どどつぼどどつぼ 茨咲く 野はねむたくて どどつぼどどつぼ

河野裕子